



# ソフトキーボード配列における設計指針

JBMIA-TR-11 :2007

(2023 確認)

平成19年3月制定

社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

標準化センター

UIデザインプロジェクト

## 標準化センター UI デザインプロジェクト委員構成表

(主査)	見上 暁	株式会社リコー
(副主査)	坂口 英二	キャノン株式会社
	石井 潤	東芝テック株式会社
	板木 冠二	富士ゼロックス株式会社
	三浦 雄一	松下電器産業株式会社
	齋藤 豊	コニカミノルタテクノロジーセンター株式会社
(事務局)	田之上 洋一	社団法人 ビジネス機械・情報システム産業協会

---

TR番号：JBMIA-TR-11

制 定：平成19年3月2日

原案作成：標準化センター UI デザインプロジェクト

## 目 次

	ページ
序文 . . . . .	1
1 適用範囲 . . . . .	1
2 定義 . . . . .	1
3 関連規格 . . . . .	1
4 ソフトキーボード設計に関する一般的原則 . . . . .	2
4.1 基本方針 . . . . .	2
4.2 推奨要件 . . . . .	3

# ソフトキーボード配列における設計指針

## Guidelines for software-keyboard on MFP's screen

### 序文

昨今のオフィス用の複合機（以下、MFPという）は、ネットワーク化の流れの中で、アドレス入力やファイル名の保存先の指定など、次々と新しい機能が追加されてきた。また操作もタッチ式画面を採用する機種が主流となり、それに伴い各社独自配列のソフトキーボードが生み出されてきた。

その中で、ユーザーがMFPを使用するにあたり、操作するユーザーインターフェイスについては、ソフトキーボードの配列における作成基準がなく、メーカー間で様々なキー配列が出現した。

その結果、ユーザーが文字入力の操作に戸惑う一つの原因となっている。

MFPのソフトキーボード配列を統一して、1つの標準化案を策定することは難しいが、共通点が多かった要素に絞り、ユーザーの「操作の流れ」を考慮して、設計する際の指針をまとめた。

### 1 適用範囲

この設計指針は、MFPを利用する際の操作性を高めるために、ソフトキーボードのボタン配置について、開発・設計する際の指針として基本的に配慮すべき事項について規定する。

対象とするのは、以下の3項目である。

- a) アルファベットキーボードの配列
- b) 50音順キーボードの配列
- c) 「アルファベットキーボード」と「50音順キーボード」との切り替え方法。

### 2 定義

この設計指針で用いる主な用語の定義は、次による。

#### 2.1

##### ソフトキーボード

「ソフトキーボード」とは、実物のキーボードを代わりに、ソフトウェアでモニター上に表示されたキーボードを使って、文字入力する画面を指す。

### 3 関連規格

JIS X 6002-1980 情報処理系けん盤配列

英名：「Keyboard Layout for Information Processing Using the JIS 7 Bit Coded Character Set」

#### 4 ソフトキーボード設計に関する一般的原則

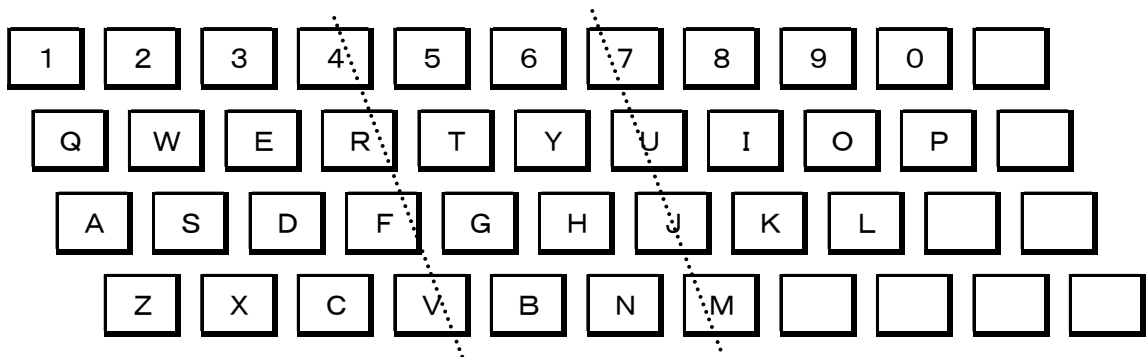
MFP、ソフトウェア及びサービスを開発・設計する際に、可能な限りユーザーが戸惑わずに利用できるように配慮する。

多くのタッチ式画面で「操作の流れ」は、画面の左上を基点に横書きで改行しながら、最後に画面右下の方向へ誘導していく、アルファベット「Z」の文字をなぞるように作られている。

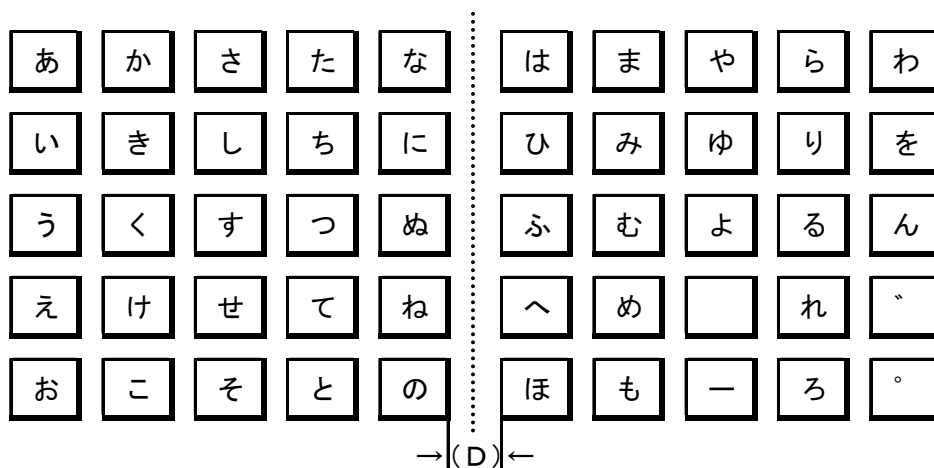
学習負荷を減らす意味で、PCの普及に伴いすでに一般的に多く使われているハードウェアであるキーボードとの親和性や、公共場面での利用状況を考慮して、配列の推奨案を決定した。

##### 4.1 ソフトキーボードの配列基本方針

a) アルファベットキーボードは、「QWERTY配列」とする。



b) 50音順キーボードは、「左からの縦書き」を基本とする。

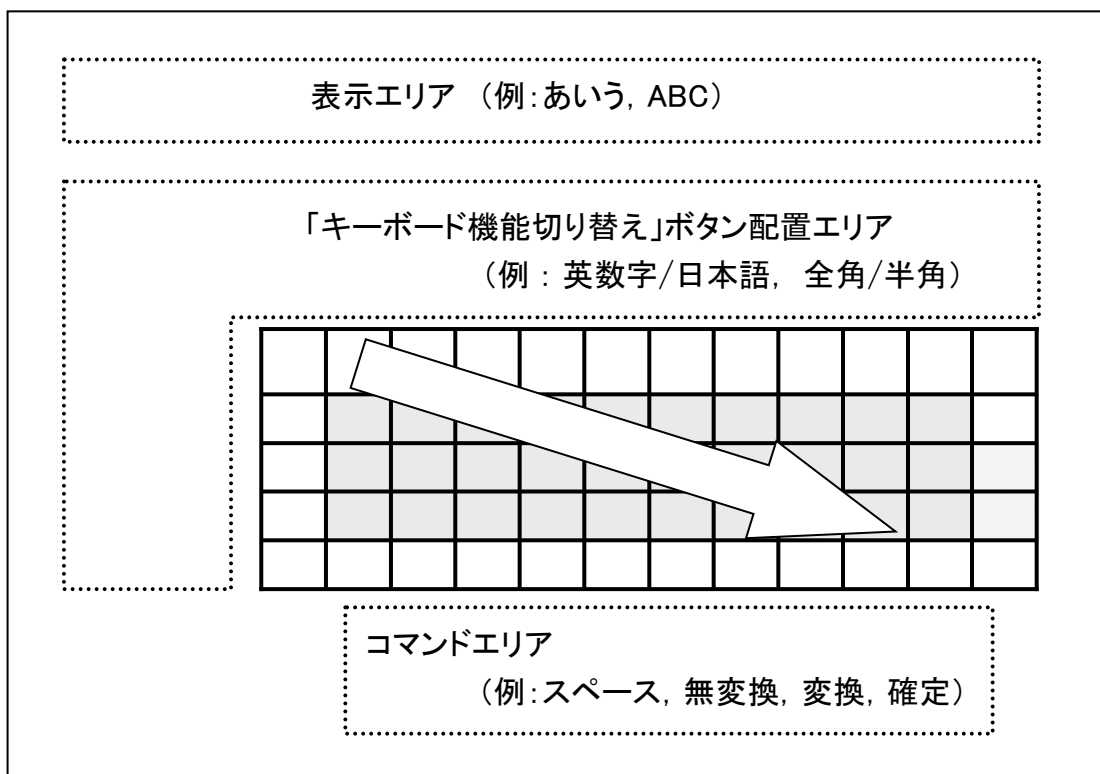


左右のブロックの間隔 (D) は、グルーピングの差が明確であること。

「左からの縦書き」とした理由は、表示エリアに左から横書き入力となるため操作性として違和感の無い左からの配列とした。また公共性が高い駅の切符自動販売機や、主要銀行及び郵便局のATM（現金自動預け入れ払い機）などを調査した結果、左からの50音順キーボード配列が採用されており、それらも参考とした。

## 4.2 推奨要件

- a) 関連機能はカテゴリごとに分けられ、配置することが望ましい。
- b) 「キーボード機能切り替え」ボタンは目立つ所に配置することが望ましい。
- c) 英語キーボード配列では、ハードウェアキーボードのようにボタンを斜めに、ズラして配置する方が望ましい。
- d) 日本語キーボードでは、各行の始まりの文字を見つけ出しやすいように、「あ」「か」「さ」「た」「な」、「は」「ま」「や」「ら」「わ」のボタンのまとまりが2つに見え、中央の間隔を広めにとることが望ましい。
- e) 「や」「ゆ」「よ」は上詰めに配置し、その下に「ー」長音を配置することが望ましい。（「よ」と「ー」の間に、1文字分「 」スペースを空けておくと見つけやすい。）
- f) 「わ」「を」「ん」は上詰めに配置し、その下に「ゝ」濁音と「゜」半濁音を配置することが望ましい。（右下に配置することで、「ゝ」と「゜」のボタンが一对で探しやすく、切り替え操作の押し間違いが軽減することを意図している。）
- g) 漢字の「変換」は入力後の変換操作になるので、操作の流れの最後になるように下位置に配置することが望ましい。



### 配置の考え方

- ー レイアウト：作業手順にそった並びで、上下に配置している。
- ー 「キーボード機能切り替え」ボタン配置エリア：  
キーボードで入力される文字の種類や入力方法を切り替えるボタンを配置するエリア。  
キーボード切替えは最初に行うので「上位置」または「左位置」に切り替えボタンを配置する。
- ー コマンドエリア：キーボードを切り替えても変わらないエリア。